

### ① 高浜虚子

明治7(1874)年生  
昭和34(1959)年没

松山市出身の俳人・小説家で、正岡子規の愛弟子の一人。柳原極堂が創刊した俳誌『ホトトギス』を継承し、夏目漱石の小説『吾輩は猫である』『坊っちゃん』を同誌に連載して話題をよんだ。子規没後は客観的に描く写生手法を守り、俳句の普及に努め、昭和29(1954)年に俳人として初めて文化勲章を受章した。

### 戻り来て 瀬戸の夏海 繪の如し

この句は、昭和11(1936)年6月11日午前、ヨーロッパの外遊(2〜6月)から帰国途中、松山市沖へ来島海峡の海域で旅客船「箱根丸」の船上から詠んだもの。外遊のうち約80日間は船上生活で、ヨーロッパでは次男・池内友次郎(作曲家)のバリの下宿に滞在し、ベルギー・ドイツ・オランダ・イギリスなどを訪ねている。詳細は、虚子著『渡仏日記』(改造社/1936)に記され、句碑の銘文はこれより抜粋。

### ③ 塩崎素月

明治16(1883)年生  
昭和21(1946)年没

愛媛県西予市城川町出身。学生時代に、村上齋月から俳句の指導を受ける。23歳で文芸誌『四国文学』の編集を任され、高浜虚子や柳原極堂などと交友。昭和2(1927)年に松山市で開催された第一回全国俳句大会を主宰した。晩年は波止浜湾小浦に移住して電照真珠養殖に励み、その間に波止浜公園で虚子を招いた俳句大会を開いている(昭和15年)。

一方、妻の波留女も昭和4年に松山で婦人俳句会「二葉会」を主宰するなど、愛媛を代表するホトトギス系女流俳人であった。

### 春潮や 十歩かかはる 島のさ満

素月

この句碑(大島石)は、平成26(2014)年11月に地元有志らによって建立された。小浦に移住後の句であろう。

### 渡佛日記の一節

昭和十一年六月十一日(木曜)

朝六時床を出て甲板に出て見ると丁度郷里の海岸を通つて居るらしい島山のため、ずまひであった(中略)そこへ同郷人の瀬川君も起きて来て互に指し示しつ、語つたかねて私の郷里の山川に接したいと云つて居つた楠窓君も呼んで共に見た今更ながら瀬戸内海の景色の和らかく繪のやうなに見入つた  
戻り来て

### 瀬戸の夏海

繪の如し

来島の瀬戸に来るまで甲板に佇んで居て少し朝飯が遅れた  
高浜虚子

この碑(花崗岩)は、もともと国鉄今治駅前にあった。戦災で焼失した駅の復興を記念し、昭和26(1951)年6月に有志が建立。しかし、駅前広場の改装によって同47年2月に糸山へ移された。

波止浜公園にも、昭和25年に建立された虚子の句碑「春潮や倭寇の子孫汝と我」があり、虚子は実際に何度か波止浜

### ④ 野口雨情

明治15(1882)年生  
昭和20(1945)年没

茨城県出身の詩人。大正時代末期から昭和初期にかけて、民謡詩人として人気を博し、童謡界の三大詩人の一人とも称された。主に作曲家の中山晋平と組み、生涯で二百余点の童謡・民謡・校歌の詩を残す。代表作に「赤い靴」(作曲/本居長世)、「シャボン玉」(作曲/中山晋平)、「七つの子」(作曲/本居長世)などがある。

### くるい沙なりや 来島瀬戸の

汐もせひなや 渦もまく

この歌碑は、昭和4(1929)年に今治へ来遊した際の詩の一節で、中山晋平が作曲し、民謡「今治音頭」となった。昭和41(1966)年10月に、波方町出身の郷土史家・森光繁が自費で建立し、当初は糸山展望台付近にあった。

また、歌人の吉井勇も昭和11年に糸山沖の小島を歌行脚している。

の地を訪れている。姪で俳人の今井つる女は、波止浜町長・今井五郎の妻であった。

### ② 柳原極堂

慶応3(1867)年生  
昭和32(1957)年没

松山市出身の俳人・新聞記者で、正岡子規とは少年時代からの友人。明治30(1897)年創刊の俳誌『ホトトギス』の発行・編集人で、晩年は子規の研究と顕彰に身を捧げた。極堂の父は今治市出身で、春秋のお彼岸には父の生家・大日方家の菩提寺を訪ねる機会があった。

### 瀬戸渦のとけては奈可れ(流れ)

### 春の潮

八十四翁 極堂

この句碑(石英片岩)を建立した「極堂会」は、昭和32(1957)年春に発足。会の目的は、極堂の事績顕彰・志の継承・愚陀仏庵の建設など。当時、今治市内に極堂の句碑が一つもなかったことから、村瀬虹雨楼・片山酒水らの「今治極堂会」が同39年11月に建立した。

### ⑥ 中渡島潮流信号所の腕木式信号機

来島海峡の近代航路整備は明治30年代に図られ、同33(1900)年4月20日に中渡島灯台、同35年4月1日に大浜灯台とコノ瀬灯標が初点灯する。中渡島灯台では、明治42(1909)年8月15日から潮流腕木式信号機などの運用を開始し、名称を中渡島潮流信号所に変更。平成24(2012)年3月26日まで業務を続け、現在は中渡島灯台の名称に復している。同灯台のある中水道は、1000メートル(時速約18.5km)の急潮流と直径10m以上の渦潮が発生する海域でも知られる。  
これは初代の信号機で、平成2年まで使用。赤丸と黒四角の形象板の傾斜角度で北流・南流を表示し、同海峡の「順中逆西航法」の助けとなった。

### ⑦ カーブ駅のJR波止浜駅

糸山公園最寄りの鉄道駅。

大正13(1924)年12月1日の開業当時、波止浜は全国有数の塩田産地だったことで、塩田内に駅舎や路線を設けることを町が拒絶。このため郊外に駅がつくられ、ホームがカーブする奇妙な設計になったという。

